

今月のスマイルさん  
Everyone to be happy with a smile.



はるかさん(11歳)

蒲生図書館でお会いしました

12/2

### ローカルサミット 県内初開催

まちづくりを考える「第10回ローカルサミットin東近江」を八日市文化芸術会館などを会場に3日間にわたり開催しました。自然と共生する持続可能な社会を目指し、平成20年に北海道帯広市で始まり、全国各地で開催されています。

「東近江市のベースを知る」をテーマに8コースでフィールドワークが実施され、参加者は百済寺や木地師の工房などを訪れました。また、「琵琶湖から望む東近江の未来の姿」と題した基調講演では、田中克さん(京都大学名誉教授)が、「人と自然のつながり、森・里・川・湖のつながり



市の可能性や地域の未来を語り合う。

を取り戻すことが、心豊かに暮らせる地域につながります。」と話しました。ほかに、「100年後の東近江から拓く地域のかたちとローカルファイナンスの活用意義」を柱に、農業やものづくりなど10の分科会に分かれ、議論を深めました。

11/23

### ここ滋賀で東近江市をPR

本市の豊かな自然や食文化を首都圏で発信する「東近江day・いもんうまいもん&日本酒バル」を県の首都圏情報発信拠点施設「ここ滋賀」(東京都中央区)で開催しました。1階では、ホンモロコのおめ煮や串焼き、鮎ずし、永源寺こんにゃくなどの特産品を



①冷酒や熱燗のお酒を振る舞う近江酒造、喜多酒造、畑酒造の蔵元  
②当日限定のオリジナルおちょこで飲み比べを楽しむ。③特産品の試食もあり、東近江市の味に舌鼓をうつ。



東近江市商工会が販売しました。3階では、日本酒バルと題して、市内6酒蔵の日本酒を販売しました。来場者は、「東京にいなから東近江市の地酒を味わうことができ、琵琶湖の食材を使ったおつまみもおいしかったです。」と話しました。

### ガリ版でカレンダー作り 蒲生図書館で体験会

11/23

蒲生図書館で、絵本作家の高部晴市さん(千葉県松戸市)を講師に、小学1年生から50歳代までの15人が、ガリ版を使ったオリジナルカレンダー作りを体験しました。これは、蒲生地区発祥



のガリ版印刷への理解を深めてもらうと、蒲生図書館が開催したものです。参加者は、ヤスリ板の上に口ウ引きされた原紙を置いて鉄筆でガリガリと音を立てながら絵柄を描き、上からインクローラーを転がして印刷しました。



①絵本作家の高部晴市さん(写真中央)が講師として指導 ②鉄筆でガリガリと音を立てながら絵や文字を描く。③ガリ版印刷を体験する参加者 ④ガリ版を使った原画に見入る親子

親子で参加した田方遥香さん(蒲生西小5年)は、「絵を鉄筆でなぞるとガリガリと音がして楽しかったです。原画の位置がずれたけれど、かえって味がある作品ができてうれしかったです。」と話しました。

11/25

### 刀匠の技を伝える「刀剣の美 鑑賞のツボ」

刀剣の魅力を学ぶ講座「刀剣の美 鑑賞のツボ」を北川正忠鍛刀場(五個荘平坂町)で開催し、25人が参加しました。刀剣の魅力を伝えようと近江商人博物館が平成23年から毎年開催。刀匠の北川正忠さんから日本

刀の歴史や刀剣ができる工程を聞き、鍛刀場で刀作りを見学しました。参加者は、刀のもととなる地鉄をつくる鍛錬、刃文をつけるための土置きから焼き入れまでの工程を見学し、熱心に説明を聞いたり質問をしました。受講した折田浩一さん

(近江八幡市)は、「テレビで見るのと実際に見るとでは、火の色も全然違って見えました。職人としての意志と根気がいる作業だと感じました。」と話しました。刀匠の北川さんは、「刀剣を身近に感じてもらえればうれしいです。」と話しました。



①刀身に焼刃土を塗る様子に見入る参加者 ②地鉄を作るため火の色を見ながら鉄を取り出すタイミングを見極める。③熱した鉄を機械で叩いて鍛える。④刀剣に刀匠の名前などを刻む。